

＜前文＞

- 1年前、新型コロナのパンデミックの急性期を終わらせ、将来のパンデミックの脅威に対する備えを強化するため、「グローバル行動計画(GAP)」を立ち上げた。
- GAPによる取組を評価し、新型コロナを抑えるために残る障壁を特定し、また健康危機に対処するための将来の連携を促進すべく教訓を検討するため、今次会合を開催。

＜新型コロナとの闘いにおける強化された取組＞

- 新型コロナは、疾病が、経済成長と開発、平和と安全、公平性と人間の尊厳といった外交政策の中核的要素に直接的な脅威を与えることを明らかにした。
- GAPは、情報を共有し連携して対応すべく、パンデミックにおける危機管理のための政治的メカニズムを立ち上げた。

＜GAPの振り返り＞

- GAPは、他の多国間・二国間の取組とともに、新型コロナの急性期を終わらせるため、共通の優先事項や協調的取組を進める新たな、また既存の取組を推進する政治的意思を生み出し注意を喚起する上で、重要な役割を果たした。
- 各イニシアティブと協力し、GAPが対象とする低所得国における平均接種率は50%以上に上昇。対象国の多くで、リスクにさらされた医療従事者と高齢者に対するほぼ完全な接種率を達成。具体的には、全世界で約130億回分のワクチンが届けられた。
- GAPの各メンバーは、約80か国を対象としたラスト・ワン・マイル支援、ワクチン接種と検査・治療のための大規模な支援、高齢者や医療従事者を含むハイリスク集団に対するワクチン接種目標の達成を支援する新しい政策、若者のワクチン接種やブースターキャンペーンの支援を促進することに貢献。
- GAPの各メンバーは、有害な誤情報や偽情報に関する情報を共有し、能動的な偽情報のキャンペーンを非難し、コミュニティレベルで情報格差に対処するための介入を支援。

＜新型コロナに対応するための更なる取組＞

- ワクチンが広く利用可能となっても、ワクチン接種にあたっての障壁に対処する柔軟で的を絞った戦略を含め、世界の最も脆弱な立場にある人々を新型コロナから守る取組に焦点をあてる継続的な必要がある。
- GAPの各パートナーは、診断検査、経口抗ウイルス薬、医療用酸素を含む公平なアクセスに取組がさらに必要であることを指摘。また、低・下位中所得国における安全で効果的かつ入手可能な価格の危機対応医薬品等(MCM)および治療へのアクセスと需要の改善のために、国際社会による調整と投資の適切な機会を特定することの重要性を指摘。

＜将来の協力の必要性＞

- 外交政策上の関心として健康安全保障に関する関心を強調することを歓迎。偽情報を含む情報操作や干渉を通じて保健課題を兵器化するいかなる試みに対しても対抗することを明言。
- より迅速で公平な対応と入手可能な価格の危機対応医薬品等(MCM)へのアクセスを促進するための、パンデミックサーージ能力とプラットフォームの必要性を指摘した。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの追求を含め、効果的な感染予防と管理対策を備えた、強力で強靱な医療システムの必要性を指摘。
- 各出席者は、将来の健康安全保障上の脅威に対し、迅速、透明、安全、安心、説明可能、かつ公平な方法で、より良く備えるために必要な行動と調整を強化すべく、今後も重要で時宜を得た取組に従事し続けることにコミットし、必要に応じ再度集うことにコミット。